

# TEAP 活用型入試とは？

TEAP という英語のテストで「**大学が指定した基準点を超えると入試の際に英語の試験が免除される**」という特殊な形式の入試です。つまり、英語の試験だけ先に終わらせてしまえるのが TEAP 活用型入試なのです。

## TEAP を受験するメリットは？？

① TEAP を採用する大学がたくさんある！

東京大学・千葉大学・筑波大学等の難関国立大学や早稲田大学・上智大学・GMARCH など難関私立大学や人気私立大学が入試に TEAP を採用しています。また、群馬大学や前橋工科大学なども全学部で TEAP を採用しており、地元の国公立大学への進学を目指す生徒にとっても非常に魅力的な試験なのです。

② チャンスが複数回ある！

TEAP の英語の試験は、年に複数回の受験が可能です。7 月頃から 11 月にかけて、3 回の機会があります。この 3 回のうち、1 回だけでも基準点をクリアすることができれば、入試で英語が免除されます。通常の大学入試は一発勝負であることが基本ですが、TEAP 活用型入試における英語は、「やり直しのチャンスがある」試験なのです。入試で自分の力を十分に発揮することができるのかどうか不安を感じる人も多いでしょう。3 回もチャンスがある TEAP 活用型入試で、その不安を取り除くことができます。

③ 共通テスト対策になる！

今年度から始まる共通テストでは大きく出題傾向が変わった科目もあります。英語もその一つで、これまで以上に読解問題の比重が大きくなっています。TEAP の Reading と Listening の問題はその共通テストの問題と似ている点が多く、TEAP の対策がそのまま共通テストの対策として大いに役立ちます。

### ③英語が苦手な人にこそ受けてほしい！

この TEAP 活用型入試は、英語の苦手な人にこそオススメします。その理由として TEAP の難易度はそこまで高くないことが挙げられます。

TEAP のレベルとしては、英検の準 2 級～準 1 級レベルです。TEAP には Reading、Listening、Writing、Speaking の 4 技能がありますが、どの技能を受験する必要があるかは大学によって異なります。Reading、Listening はすべて選択式で、共通テストと類似しており、難易度が高い問題ばかりではありません。Writing や Speaking は慣れない人もいるかもしれませんが、しっかりと対策をすればできるようになります。また、この試験で重要なのはあくまで「基準点を上回ること」で高得点を取らなくてもよいのです。

### ④他の科目に時間を割ける！

TEAP を受験した際のスコアの有効期間は 2 年間で、高校 2 年生から受験可能です。早く基準点を確保すればするほど、英語以外の科目に勉強する時間を多く割りふることが可能になります。先ほど述べたとおり TEAP で基準点以上のスコアを一度でも取れたら、その大学の入試では英語を使用せず、その学部が指定する選択科目のみを受験します。また、一度の TEAP で受けたスコアは、複数の学部で併用することができます。つまり、大学・学部別の英語対策をする必要がなくなり、他の必要な科目の勉強に専念することができるのです。